

第12回 相模川川づくりのための土砂環境整備検討会

－ 第11回検討会の主な指摘と対応（一覧） －

平成26年11月26日（水）

国土交通省 京浜河川事務所

神奈川県 流域海岸企画課

神奈川県 企業庁 利水課

第11回検討会の主な指摘と対応等

第11回検討会の主な指摘と対応

主な論点	質問・意見等の要約	対応
流域全体の土砂収支	<ul style="list-style-type: none"> ● 提言書では流域全体の土砂量を示しておりフォローアップが必要。【学識委員】 ● 横断工作物により土砂移動が分断された量を把握しておくべき。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 提言書で作成した年代を踏襲し、年代別に土砂収支を算出した。 ● 砂防堰堤の捕捉量を推定した。
砂防堰堤による土砂移動特性の変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂防堰堤でも土砂の捕捉が生じており、砂防堰堤による土砂移動特性の変化を整理した方がよい。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 砂防堰堤が有する機能について整理した。(土砂を貯める効果、及び、満砂後の効果)
相模ダム浚渫土砂の利用状況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 相模ダムの浚渫土量、利用状況等の詳細を示して欲しい。【市民委員】 ● 置き砂及び養浜に係る基本的なコストを明確にして欲しい。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 浚渫土の内訳を整理。
河床材料の調査方法と調査結果の活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂の量と質を良く仕分けして整理して欲しい。河床材料調査の位置や目的、意味も理解する必要がある。【学識委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 河床材料の調査位置別に、調査結果の使用用途や目的について整理し、表層調査は主に生物環境の検討に、下層調査は主に河床変動の検討に活用していく。
河道域の河床変動土量	<ul style="list-style-type: none"> ● 河道域の河床変動土量について、過去の20年の変化量が大きく、近年20年の変化量が小さいのは、過去の20年で掘れるところが掘れ、貯まるところが貯まったので当然ではないか。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指摘のようなことも考えられる。ただし、磯部頭首工周辺では、その変化が近年においても不可逆的に生じていることが問題である。
河床材料の特異値の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 18.0kの河床材料調査結果の取り扱いに注意して欲しい。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 同じ河道区分(15.6k~22.2k:seg2-1)を対象に粒径加積曲線の重ね合わせを作図したところ、18.0k(H12調査)の結果だけが粒径集団から外れてプロットされた。特殊なデータが含まれる場合は取扱いに留意する。
土丹露出の実態と要因の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 土丹の露出範囲については、三川合流地点以外でも確認されているときいている。沖積粘土とされているが、質をしっかりと把握した方がよい。【学識委員】 ● 洪水時の中津川の流量が減少したことで三川合流地点の土砂供給量が減少し、土丹露出が加速したのではないか。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既往資料と現地踏査結果より、厚木から神川橋下流で土丹の露出が確認できている。 ● 三川合流部では土丹調査及びボーリング調査より、地質的に土丹の露出しやすい条件となっていると考えられる。 ● 土丹の露出は、過去の砂利採取や洪水による河床低下、砂州の伝播、宮ヶ瀬ダムの完成による流況の変化など、複数の要因が考えられ、引き続き分析が必要。 ● 上記について経過観察し、土丹露出の進行実態と要因は今後も分析を行い、環境及び構造物への影響についてモニタリングしていく。

第11回検討会の主な指摘と対応等

第11回検討会の主な指摘と対応(前頁の続き)

主な論点	質問・意見等の要約	対応
中津川樹林化と宮ヶ瀬ダムの関係	<ul style="list-style-type: none"> ● 中津川の樹林化は、宮ヶ瀬ダムの影響があるように見えるので、詳細に調べた方が良い。【市民委員】【学識委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 航空写真の経年変化より、H10年頃(宮ヶ瀬ダム建設後)から中津川の樹林化が見られるが、平成初期は規模の大きい洪水が発生しなかったため中州や高水敷が冠水せず、その間に樹林化が進行したことや、市街化の進行により土地が整正され流域から河道への流出土砂が減少したことも要因として考えられる。
相模川河口砂州・干潟への影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物の生息場所である相模川河口砂州・干潟は、河道からの供給量増の影響があるのか議論していく必要がある。【学識委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後の議論やモニタリングに向けて、河口域の河口砂州・干潟環境について、地形変化や生物(植物、鳥類、底生動物)の基本的な特性を整理した。
河口・相模川周辺海岸域の管理目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 河口砂州や河口テラスのボリュームを把握し、それらを管理目標として監視していくべきではないか。【学識委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海岸汀線の安定を目標に河川からの供給土砂量を増加していく上で、河口テラスは河道域と海岸域の土砂移動をつなぐ重要な場であると考えられるため、動態観測を行うとともに動態メカニズムを分析解明することで適切な目標を設定していく。

第11回検討会の主な指摘2(土砂管理を進めていく上での留意事項)

主な論点	質問・意見等の要約	土砂管理を進めて行く上での留意事項等
磯部頭首工の改築計画に関する住民への説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 磯部頭首工改築の計画にあたっては、計画を練る段階から市民の意見を聞いて、重要なポイントは反映する努力をして欲しい。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂管理対策の計画や実施の際には関係者や市民等の意見を伺いながら理解を得て進めていく。
関係者へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ● 漁協関係者に対してヒアリングを行っているのか。河口の環境が変わっていく中で漁業に対する影響を懸念する声や、もっと実施して欲しい等、意見は聞いているのか。【市民委員】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、検討を進める中で対応していく。